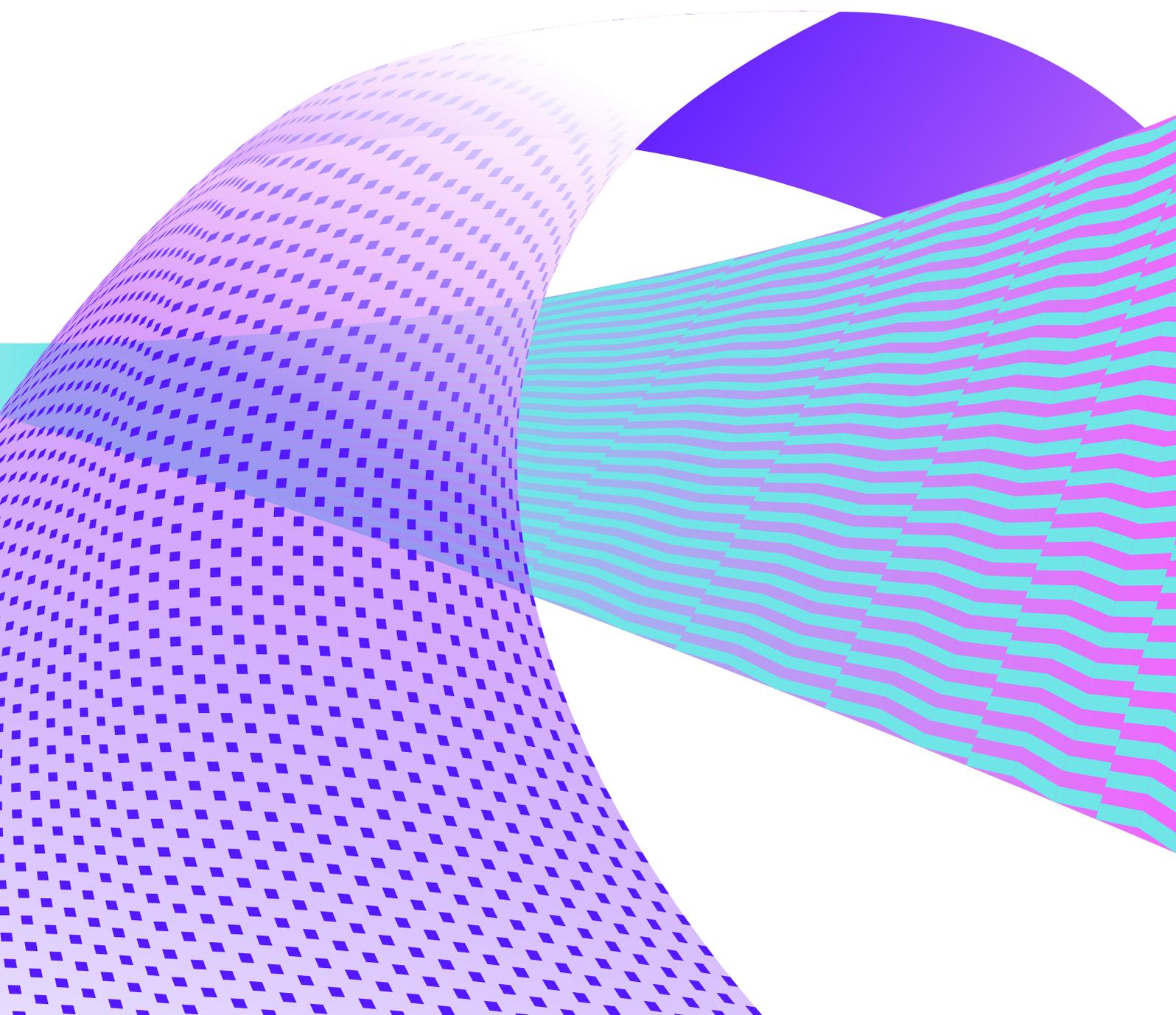


# 貿易金融の新たな 課題のための新しい ソリューション

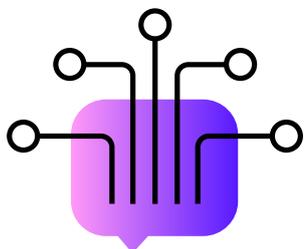


# 貿易金融の新たな課題のための新しいソリューション

## 目次

貿易金融の「ニューノーマル」	3
変化と挑戦の時代	4
ABBYY Digital Intelligenceを活用する理由は？	5
貿易金融がDigital Intelligenceから享受できる3つの利益	6
1. 生産性の向上	6
2. コンプライアンスの改善	7
3. 安全性の改善	8
将来を見据えて：ブロックチェーンにとってのチャンス	9
貿易金融の将来は、デジタル…そしてインテリジェント	10

# 貿易金融の「ニューノーマル」



2020-2021年に起きた前例のない出来事によって、ほぼ全ての産業分野で、根底から覆されるような変化が生じました。貿易金融分野も例外ではありません。とりわけCOVID-19のパンデミックとそれに付随する影響（ロックダウン、渡航の制限、世界的な景気後退など）は、長いこと放置されていたこの産業分野の脆弱性を露わにしました。もはや、目をつぶり続けることはできません。この脆弱性の範囲は、ちょうど明らかになったばかりです。銀行は、それに対応するソリューションを探しています。

もし各銀行が貿易金融分野に集中し、自身の置かれている周辺環境の課題を克服しようと試みるなら、まずは自分たちの業務を詳細まで見直すことが、はじめの一歩となるでしょう。この作業を終えたときのみ、コスト削減のチャンス特定できるようになるでしょう。それだけではありません。生産性の向上、コンプライアンス違反によって生じる多大なコストの回避、そして損害を被るようなエラーの削減なども可能になるのです。

## 幸運にも、それに適した方法で助けとなるソリューションがあります。それは、Digital Intelligenceです。

Digital Intelligenceは、ポスト・パンデミックの世界で自信を持って活動できるようにします。それは、以下の2つのゲームチェンジャーとも呼べる革新的な機能によって実現されます。

- 文書の受け取りや管理プロセスの自動化
- 問題があり、効率の悪い業務プロセスを修復する機会の発見



## 変化と挑戦の時代

COVID-19のパンデミックとそれに関連する状況の発展は、貿易金融の分野で前例のない障害の連鎖を引き起こしました。ロックダウン、渡航制限、サプライチェーンの破壊、そして経済の後退などの関連し合う要素のため、世界貿易機関は、[2020年の世界の商業貿易総量が、9.2パーセントも下落した](#)と算出し、[2021年は13から32パーセントも落ち込むことが予測されています](#)。

貿易量の後退に加えて、ロックダウンや渡航制限は、商品市場(例、原油など)にも劇的なほどに悪い影響を及ぼしました。そうして、マージンにも強い圧力がかけられました。産業全体の問題に加えて、不正や融資の減損処理などの件数が大幅に上昇したのです。ある研究調査が英国の大手銀行によって行われました。そのなかで、2019年後半6ヶ月の数字と比較し、[2020年の前半6ヶ月は、詐欺が66パーセントも増加したことが明らかになりました](#)。欧州銀行監督局は、[近い将来に不良債権が「大量に増える」](#)ことを予想しています。景気の回復が目前に迫っている一方で([アナリストは、2022年までにCOVID-19のパンデミック以前の経済水準に戻ることを予測しています](#))、投資収益率は低いままでしょう。コストが上昇したためです。

パンデミックの影響以外にも、バーゼルIVによる司法の要求比率が上昇し、より厳格になり続けるKYCやAML(アンチマネーロンダリング)の措置へのコンプライアンスを確保するためのコストが高騰する状況に直面しています。COVID-19による混乱から収益が回復したとしても、金融機関は重圧に晒されたままなのです。彼らは、貿易金融部門の不安定な収益を上昇させるための方法を見つけ出さなければなりません。

# ABBYY Digital Intelligence を活用する理由は？

国際商業会議所によれば、ある時点での貿易金融システム内では、40億件もの文書のやり取りが行われているそうです。これらの文書の手作業による処理は、紙の形式であれ、他の人手による介入を必要とする形式（例、手でデータを書き写さなければならないようなEメールで送信されたPDFデータ）であれ、輸送を遅延する可能性を引き上げます。さらに、低い生産性によりマージンが小さくなり、人的エラーは大きなコストの原因となる障害につながります。

Digital Intelligenceは、テクノロジーの2つのクラスを統合することで、銀行をサポートします。これにより、業務プロセスとプロセスの起点となるコンテンツを理解し、最適化を進められるようになります。Process Intelligenceテクノロジーは、エンドツーエンドの可視化を業務プロセス内にもたらし、それが課題を特定し、効率性を向上させる成果をもたらす方法を提供します。同時に、Content Intelligenceの機能は、デジタルワーカーが非構造的なコンテンツを構造化し、利用可能な情報に変換できるようにします。そうして、コンテンツ中心のプロセスからより大きな価値を生み出すのです。

Digital Intelligenceを活用することで、貿易金融機関は、生産性を向上させることができます。また、これらの機関のコンプライアンス確保の努力を支援し、輸送やそのためのスタッフの安全性を改善させることもできるのです。

# 貿易金融がDigital Intelligenceから享受できる3つの利益

## 1 生産性の向上

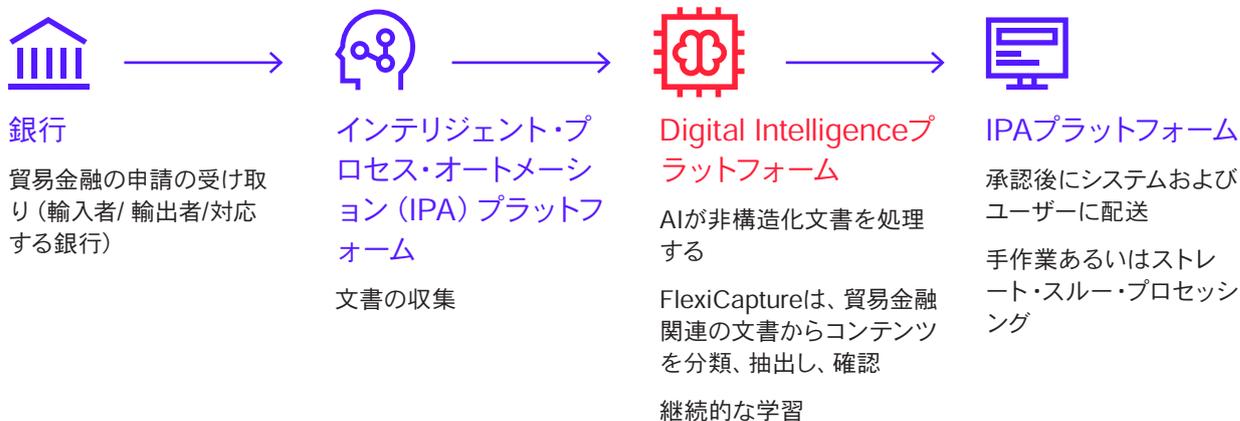
貿易金融のプロセスには、信用状、保証書、商業送り状、船荷証券、原産地証明書など、100種類を超える書類が存在します。ここで挙げた例は、ほんの一部にすぎません。これらの文書から手作業で情報を抽出し、適切なシステムに入力しなければならないことが、よくあります。これは、時間の浪費であるだけでなく、人的エラーの大きなリスクを背負うことにもつながります。

Digital Intelligenceは、構造化および非構造化文書の受け取りを自動化します。この作業は、貿易金融分野で定着しているベストプラクティスに従って行われます。イベントのモニタリングや予測分析から得られたインサイトは、継続的なプロセスの改善を可能にします。それは、文書中心のプロセスにおける人件費と平均処理時間（AHT）の削減を可能にします。

### 「貿易金融について話をしていますか？」

貿易金融の国際性という特徴は、途切れることのない多数の言語の文書を継続的に処理し続けることを要求します。ABBYYのDigital Intelligenceを活用したソリューションは、200以上もの言語の全ての組み合わせに対応し、認識します。ユーザーインターフェースは13ヶ国語に対応しており、貿易金融業務にとって理想的なソリューションです。

Digital Intelligenceは、文書の受け取りプロセス内に生じる問題を取り除きます。そうして、文書の受け取りから、下記の適切なシステムおよび審査官への転送まで迅速に行うことができます。



## 2 コンプライアンスの改善

AMLおよびKYCの規制に従って違法行為の可能性を取り除くためには、貿易金融関連文書の原本から情報を抽出する必要があります。そして、その情報は、銀行のシステム内にある他のデータと比較されなければなりません。このアプローチがマニュアル作業の場合、作業プロセスは遅くなり、大きな労力を使い、エラーも起こりやすくなります。これは、意図しないコンプライアンス違反にもつながります。

受け取る文書から自動的にデータを抽出した後に、Digital Intelligenceは非構造的なコンテンツを構造化し、利用可能な情報に変換します。人口知能（AI）をベースとしたデジタルワーカーは、文書のコンテンツをAML/KYCの規則と照合することができます。これにより、人間のコンプライアンスの専門家の正確な確認が必要となるケースを知らせることも可能です。

Digital IntelligenceとAIの組み合わせによって、各銀行は、コンプライアンス確保のプロセスを整理することができます。同時に、人的スタッフを退屈な確認作業から解放し、より難しく、挑戦しがいのある作業に集中できるようにします。

“ ABBYYのContent Intelligenceを活用することで、私たちは数多くの多種多様で複雑な文書の処理を行うことができます。例えば、銀行保証状などです。AIベースの自己学習機能は、継続的なアウトプットの改善を可能にします。ABBYYのソリューションは、銀行のエコシステム内へのシームレスな統合が可能です。その結果として、プロジェクトは非常に速やかに実行されるようになりました。そうして、文書処理の品質や貿易金融の担保を確保するための時間に関して、大きな成果をあげられるようになったのです。

↳ [Marijan Djapic, デジタル化および販売担当, Erste Bank Group](#)

### 3 安全性の改善

文書処理の遅延は、輸送の延期につながります。これは、危険な状況につながるおそれがあります。例えば、腐りやすかったり、燃えやすかったりする貨物が、長期間にわたってドックや倉庫に置かれるようになります。

Digital Intelligenceは、作業プロセスをせき止める障害を取り除き、貿易関連の文書処理でのエラーを削減します。これにより、貨物の損傷や火事の危険性を回避しつつ、目的地に向けて輸送を進められるようになります。

#### Digital Intelligenceとサステナビリティ

この40年の間に、世界全体での紙の使用量は400パーセントも上昇しました。そして、世界中の産業的な木材伐採の50パーセントは、紙を作るために使われています。乱伐の原因となるだけではありません。紙の消費は大量のゴミを生み出すことになり、米国の一般廃棄物の26パーセントにも上ります。(出典)

貿易金融は、伝統的に紙の文書を大量に使ってきました。これは、国際的な紙の浪費とゴミの排出に加担してきたことを意味します。大量の紙でのやり取りを減らすことで、Digital Intelligenceは、世界中の銀行がカーボンフットプリントを削減できるようにサポートします。各銀行は、森林伐採やゴミの排出の抑制に貢献できるようになるのです。



# 将来を見据えて：ブロックチェーンにとってのチャンス

Digital Intelligenceは、貿易金融機関が現在直面している課題を解決するサポートを行うだけではありません。将来に向けた準備を行うためにも、重要な存在です。例えば、各銀行は、ブロックチェーンや分散型台帳技術（DLT）に取り組み始めています。より効率的で、より安全な貿易金融業務のアプローチを開発するためです。これらの実装を成功させるために、ブロックチェーンは、デジタル管理が可能な文書を必要としています。また、Digital Intelligenceがいたるところに搭載された最適化されたプロセスも欠かせません。

“ 「ブロックチェーン」 は、不変の監査証跡を唯一無二の黄金の情報源にすることが可能です。これにより、リアルタイムの同時進行で合意に基づいた意思決定をできるようになります。このテクノロジーは、文書処理の作業から紙の使用を無くしてしまう可能性を秘めています。さらには、完璧なまでにトランザクションの透明性を確保し、スマート・コントラクトによって自動的にアクションが遂行されるようになるのです。

↳ [Cécile André Leruste, Deloitte社](#)

2017年に国際連合国際商取引法委員会（UNCITRAL）は、モデル法MLETR（Model Law on Electronic Transferable Records、電子的転送可能記録のためのモデル法）を施行しました。これにより、貿易や貿易金融のための各種ツールのデジタル化を広く浸透させるために不可欠な明確さが確保されるようになったのです。分散型台帳技術（DLT）およびブロックチェーンは、信頼性の高い完全にデジタル化された記録を可能にします。

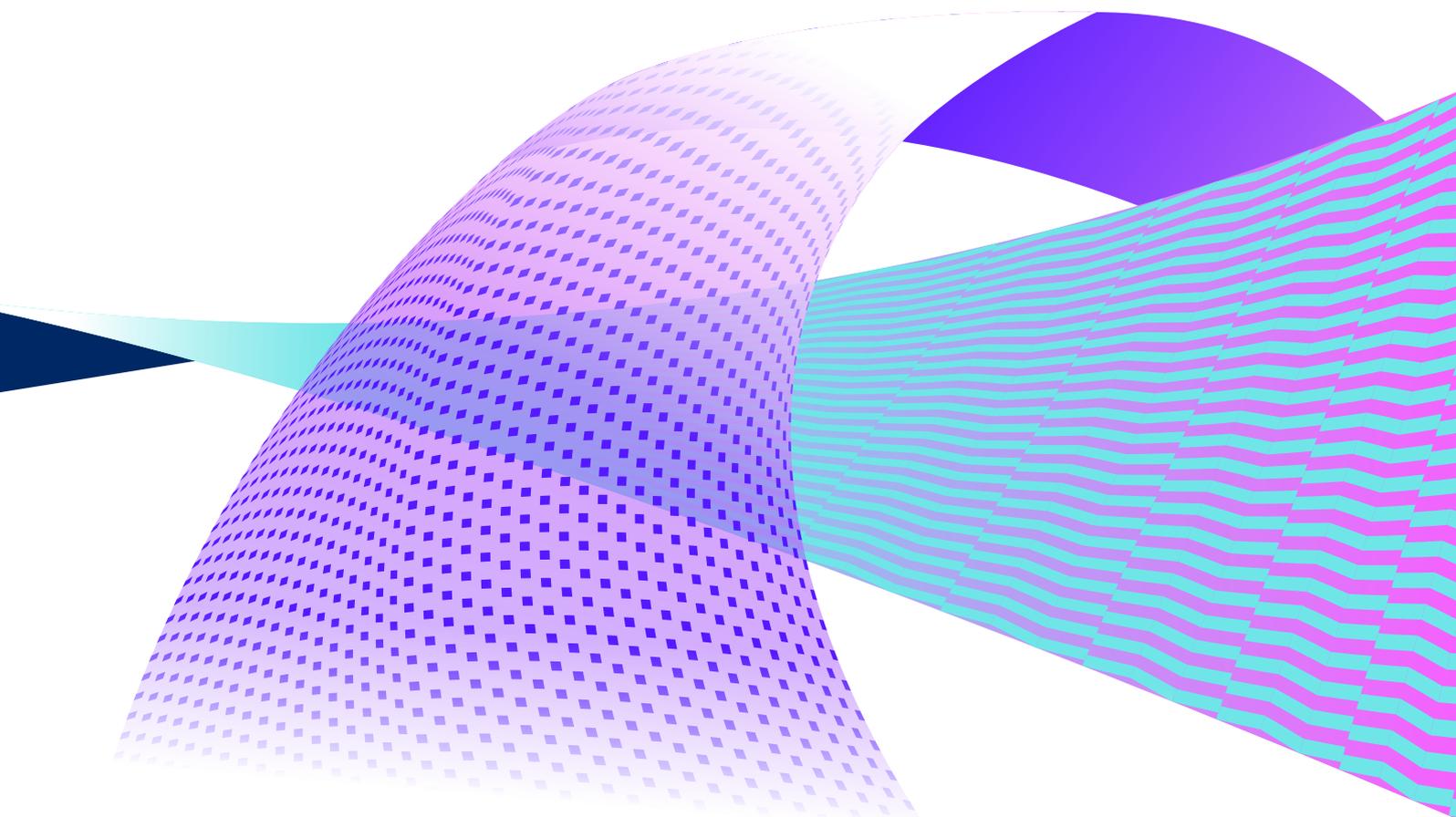
アジアでは、2020年10月に14の銀行からなる国際的な組合が次のような発表を行いました。デジタル化された貿易金融の記録簿を作成するために協力し合い、異なる銀行からそれぞれ重複して融資を受ける不正行為の削減を目指すことを明らかにしたのです。このようなソリューションは、費用がかかる上に独占的でもあります。ABBYYでは、この動きを次のように見えています。多数の組合が共同で標準化された「勝者が一人勝ち」型のプラットフォームを開発する場合、主要銀行の大部分が参加しなければなりません。しかし、それが実現するには、数十年かかる可能性もあります。

ブロックチェーンが貿易金融の次の時代を形成する場合（実際に、そうなる兆候はすでに示されています）、Digital Intelligenceに投資を行っている銀行は、有利なポジションを獲得できるでしょう。そうして、その利益をすぐさま受け、競争で勝ち抜く武器を獲得するのです。

# 貿易金融の将来は、デジタル… そしてインテリジェント

直近の危機による損害を被るような影響が落ち着いてきた（少なくとも日常に戻りつつある）ように見える一方で、各銀行は、未来に起こりうる障害に向けて柔軟であり続け、いつでも対策の準備ができていなければなりません。Brexitやブロックチェーンテクノロジー活用の広がりなどのように、数多くの予測不可能なイベントが起こりうるのです。Digital Intelligenceは、各銀行が文書ベースの業務プロセスを整理し、効率化を進められるようにします。その結果として、より収益の大きなマージンを得たり、コンプライアンス面でのリスクを下げたりできるようになります。そうして、将来の課題解決に向けて対応できるようになるのです。

詳しい情報については、[www.ABBYY.com/ja/finserv](http://www.ABBYY.com/ja/finserv) をご参照ください。



**ABBYY**

© ABBYY 2021.

ABBYYは、ABBYY Software Ltdの商標です。ここに記載されている他のすべての製品名、商標、登録商標は、各所有者に帰属します。

本書は情報提供のみを目的として作成されており、掲載内容は事前の通知なく変更される場合があります。

記載内容に誤りがないことの保証はいたしかねます。また、他の保証や条件の対象にもなりません。ご質問等は、弊社担当者にお問い合わせいただくか、製品文書をご参照ください。#12884

WWW.ABBYY.COM